

第 2 回災害対応空間の設営・運営に関する研究会を開催しました（2021/2/8）

テーマ：イタリア市民保護局、避難所運営、2009 年イタリア中部地震（ラクイラ）
場 所：オンライン

災害対応空間の設営・運営に関する課題を整理し、改善していくことを目的として、昨年の 12 月、地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野の村尾修教授と坂茂特任教授（客員）（慶應大学環境情報学部教授）が中心となり、「災害対応空間の設営・運営に関する研究会」が立ち上がりました。そして 2 月 8 日（月）に「第 2 回災害対応空間の設営・運営に関する研究会—イタリア市民保護局における災害後対応活動—」が開催されました。イタリアは先進国の中でも災害後の被災者支援が行き届いていると言われている国であり、そうしたシステムを深く理解しようという趣旨で開かれたものです。

研究会には、第 1 回研究会同様、本テーマに必要とされる様々な分野の当研究所内の専門家とともに目黒公郎特任教授（客員）（東京大学生産技術研究所教授）が集まり、以下のプログラムにしたがって情報交換を行いました。

まず、フルコ・フラヴィア助教（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）から、イタリアの災害と被災者支援の歴史、市民保護局の概要について報告があり、つづいて清水泰有氏（立命館大学博士課程後期）から、ラクイラで発生した 2009 年イタリア中部地震時の動きと現地での避難所運営の仕組み、そして日本とイタリアの災害対応の比較などについての調査報告がありました。

今後も引き続き、研究会を行なっていく予定です。

（プログラム）

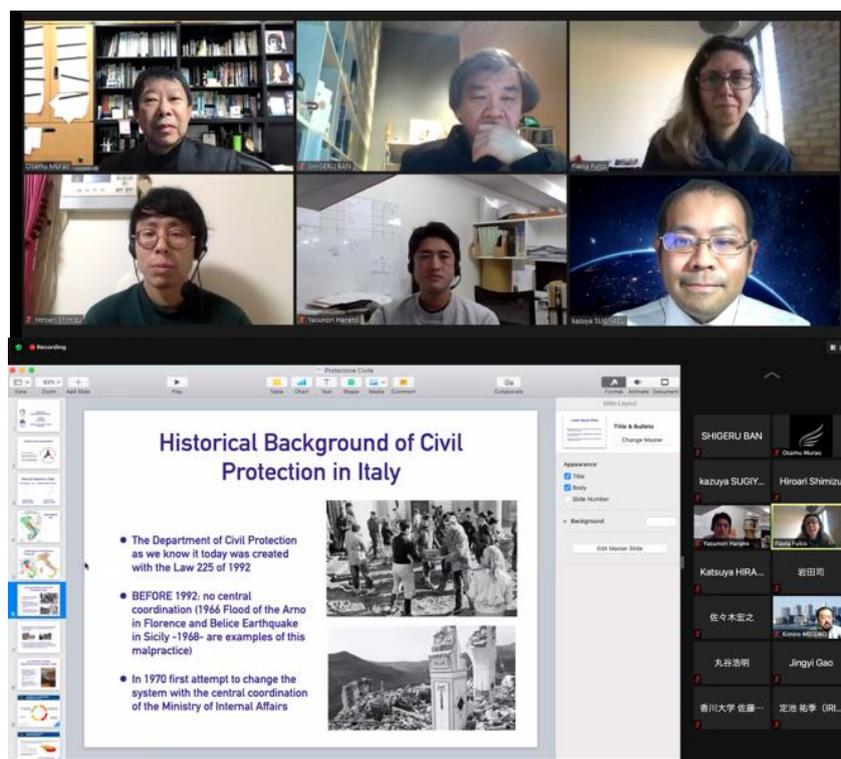
開会の挨拶と趣旨説明（村尾修）

イタリア市民保護局の概要（フルコ・フラヴィア）

イタリアにおける災害後避難所運営に関する調査報告（清水泰有）

総合討論

閉会の挨拶（坂茂）



オンラインでの研究会の様子